

小規模企業景気動向調査

[平成17年5月期調査]

低迷続く中で、業種により一進一退が見られる小規模景況

平成17年6月13日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象: 全国約300商工会の経営指導員

調査時点: 平成17年5月末

調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体>

5月の小規模企業景気動向調査によると、産業全体のD.I.(景気動向指数・前年同月比)は、売上額がマイナス22.6(前月比プラス0.1ポイント)、採算がマイナス27.3(同プラス0.3ポイント)、資金繰りがマイナス25.4(同プラス0.7ポイント)、業況がマイナス29.9(同プラス1.2ポイント)となった。製造業は機械金属製造業や自動車部品製造業が牽引し回復傾向が見られた。建設業は、公共事業の発注減少との回答が多く、業況の悪化が見られた。小売業は、引き続き厳しい環境にあるものの、打開策を積極的に展開している企業が増加しているとの回答があり、回復傾向を見せている。サービス業では、原油を中心とした原材料の高騰や競争の激化により悪化傾向を見せている。今月期は、産業全体では若干の回復基調が見られるものの、依然業種間格差が窺える調査結果となった。

<製造業>

製造業については、売上額がマイナス4.4(前月比プラス2.7ポイント)、採算がマイナス15.2(同プラス4.7ポイント)、資金繰りがマイナス15.4(同プラス2.4ポイント)、業況がマイナス11.0(同プラス7.1ポイント)となった。原油を中心とした原材料高騰など厳しい状況が続く中、自動車部品製造業の好調維持や機械金属製造業における受注増加との回答が多く、全ての項目で改善した。

<建設業>

建設業については、完成工事額がマイナス35.6(前月比マイナス1.9ポイント)、採算がマイナス43.4(同マイナス2.3ポイント)、資金繰りがマイナス42.3(同プラス0.2ポイント)、業況がマイナス48.8(同マイナス6.5ポイント)となった。引き続き災害復旧に係る特需によって好調との回答が見られるものの、全体的には公共事業の発注減少が影響し、売上額、採算、業況の三項目にて悪化した。

<小売業>

小売業については、売上額がマイナス30.3(前月比プラス3.1ポイント)、採算がマイナス29.3(同プラス1.5ポイント)、資金繰りがマイナス27.5(同プラス1.7ポイント)、業況がマイナス35.2(同プラス3.9ポイント)となった。大型店舗及びチェーン店との価格競争に苦戦しているとの回答が見られものの、顧客獲得のためのイベントなどの工夫を積極的に図るなどして健闘しているとの回答も目立ち、全項目で改善した。

<サービス業>

サービス業については、売上額がマイナス20.0(前月比マイナス3.4ポイント)、採算がマイナス21.3(同マイナス2.8ポイント)、資金繰りがマイナス16.6(同マイナス1.6ポイント)、業況がマイナス24.7(同マイナス0.1ポイント)となった。旅館業では、好天に恵まれた大型連休の恩恵を受けたとの明るい回答が見られるものの、洗濯業は原油価格高騰、理美容業はチェーン店の進出による競争の激化など業種ごとにマイナスの影響要因が窺え、全ての項目で悪化した。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比
売上額	▲22.7	▲22.6	0.1	▲7.1	▲4.4	2.7	▲33.7	▲35.6	▲1.9
採算	▲27.6	▲27.3	0.3	▲19.9	▲15.2	4.7	▲41.1	▲43.4	▲2.3
資金繰り	▲26.1	▲25.4	0.7	▲17.8	▲15.4	2.4	▲42.5	▲42.3	0.2
業況	▲31.1	▲29.9	1.2	▲18.1	▲11.0	7.1	▲42.3	▲48.8	▲6.5

業種	小売業			サービス業		
	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比
売上額	▲33.4	▲30.3	3.1	▲16.6	▲20.0	▲3.4
採算	▲30.8	▲29.3	1.5	▲18.5	▲21.3	▲2.8
資金繰り	▲29.2	▲27.5	1.7	▲15.0	▲16.6	▲1.6
業況	▲39.1	▲35.2	3.9	▲24.6	▲24.7	▲0.1

注) D.I.(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

問い合わせ先: 企業支援部 市場開拓支援課 平田 TEL: 03-3503-1256(直通)

E-mail: shijo@shokokai.or.jp